

# 「橋下」批判の堂々巡りに一石

市田良彦・神戸大教授  
(54)の『革命論』(平凡社新書)が刊行された。

社会思想史が専門の市田さんは、イタリアの哲学者、アントニオ・ネグリの交友で知られる。本書は、ネグリの説を含む現代ヨーロッパ哲学を通して、政治とは何かを問うた。市田さんは、本書を書いた背景に「はやりの政治哲学への違和感がある」とする。

この政治哲学とは、「正義論」で有名なマイケル・サンデル米ハーバード大教授ら米国中心の思想潮流のこと。言論のあり

## 市田良彦・神戸大教授『革命論』

方や公共性など政治のルール、手続きは論じても、「政治を成り立たせる社会や経済の構造を見ない」。そこまで考えるのが、本書であげた西欧の政治哲学という。

橋下徹大阪市長を批判

### 近刊

する識者にも、米国流の政治哲学は影を落とす。「彼らは、橋下市長の政治姿勢を『ハシズム』と批判する。だが、『手続きをいくら議論しても仕方がない。それより構造に手をつける』という大衆

的ないら立ちこそ、橋下

市長を支えている。この

いら立ちに、市長を批判

する識者は応えていない

ように感じる。彼らの批

判は、結局、『ルールを

守らない』市長を選んだ

有権者を見下すことにし

かならないのでは」

そんな憤りがあるから

こそ、書名を過激に「革

命論」とした。「革命と

は、『政治を成り立たせ

ているもの自体に手を

付ける』ということ。今

の政治を巡る議論は、要

するに『政治家がアホ』

と『有権者がアホ』の繰

り返して、宙に浮いてい

る。この状況に一石を投

じたいのです」

【鈴木英生】